

底曳網に卵の入網がみられた海域は図-6に示す通り知念の南側の15m以浅海域、久場崎沿岸、泡瀬から勝連半島にかけての水深10m以浅海域であった。

また、産卵巣による産卵量をみると、1個体の産卵量は、卵のう数で51~581、推定産卵数は153~1743個であった。また産卵回数は2回以上数回に分けて行なわれていることが明らかになった。

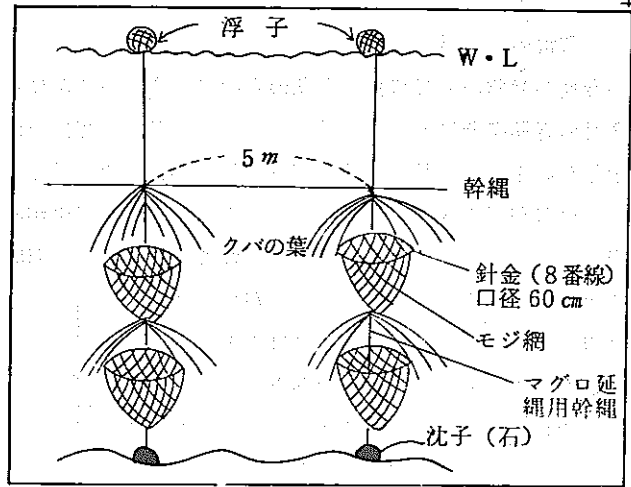


図-5 籠網産卵巣模式図

籠網での産卵場所は籠の内部で、籠をつり下げたマクロ延縄用の幹縄に産卵付着された。

自然海域での産卵基質は平らなサンゴ礁の下面海藻、イソバナ等であるが、底曳網に入網がみられる卵は、ホンダワラ属の藻類に付着していることから、この種の藻類も好適な産卵基質になるものと思われる。また産卵海域としては、波が静かで潮流の弱い海域が条件となる。

8月1日に採集したアオリイカの卵の平均長径は5.5mmであった。

表-2 籠網産卵巣設置による産卵調査結果

調査月日	調査海域	水深(m)	産卵カゴ数	卵のう数	一卵のう数 平均卵数	推定産卵数
8月1日	泡瀬東側	7	$\frac{上1}{下6}$			
8月15日	天願	5		224	2.3	524
8月29日	泡瀬南側	1.5~3	1			
9月14日	勝連半島南西	6~10	1			
10月2日	"	"	5	51~581	$\frac{3}{4}$	153~1743
10月24日	"	"	1	57	4	228

II 発育段階別分布生態

(1) 分布・移動と環境

孵化直後から孵化後1ヶ月未満の稚イカは浮遊生活をしていることから、ネットおよび集魚灯による調査をしたその結果を表-3に示した。金武湾では3月~5月に湾中央~湾口部にかけての海域で25尾、中城湾口部で5月に17尾採捕したのみである。中城湾の産卵場が前述した海域にあること、その海域では図-8からわかるように建干網、マス網等によ

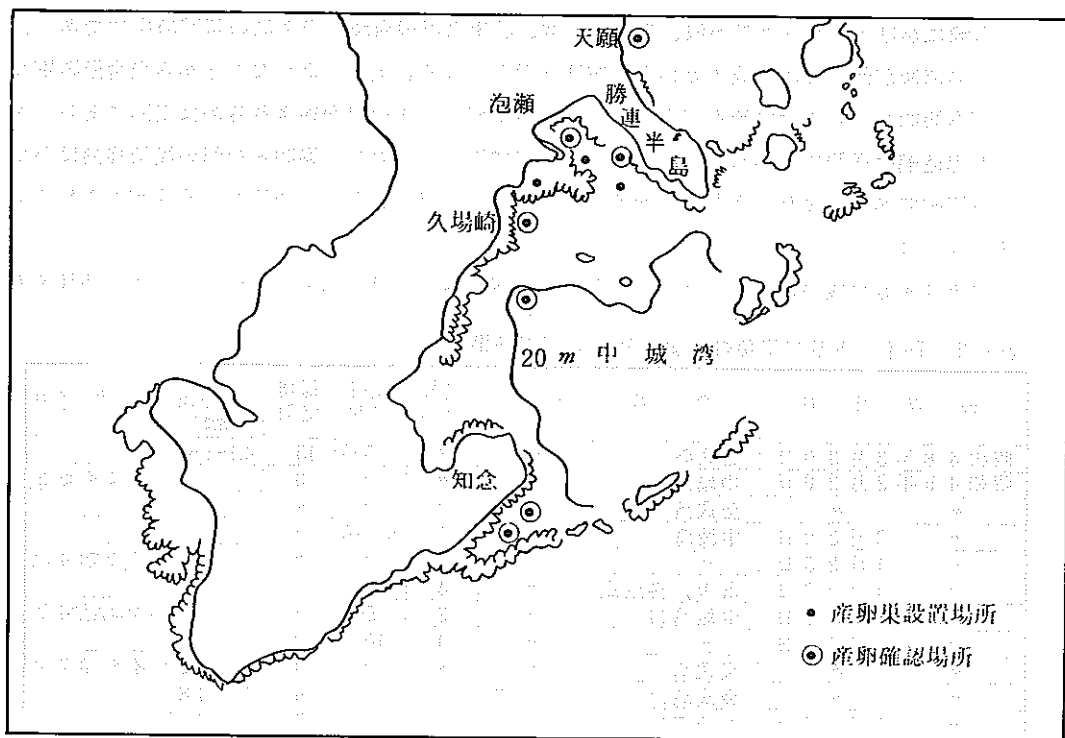


図-6 アオリイカ産卵場図

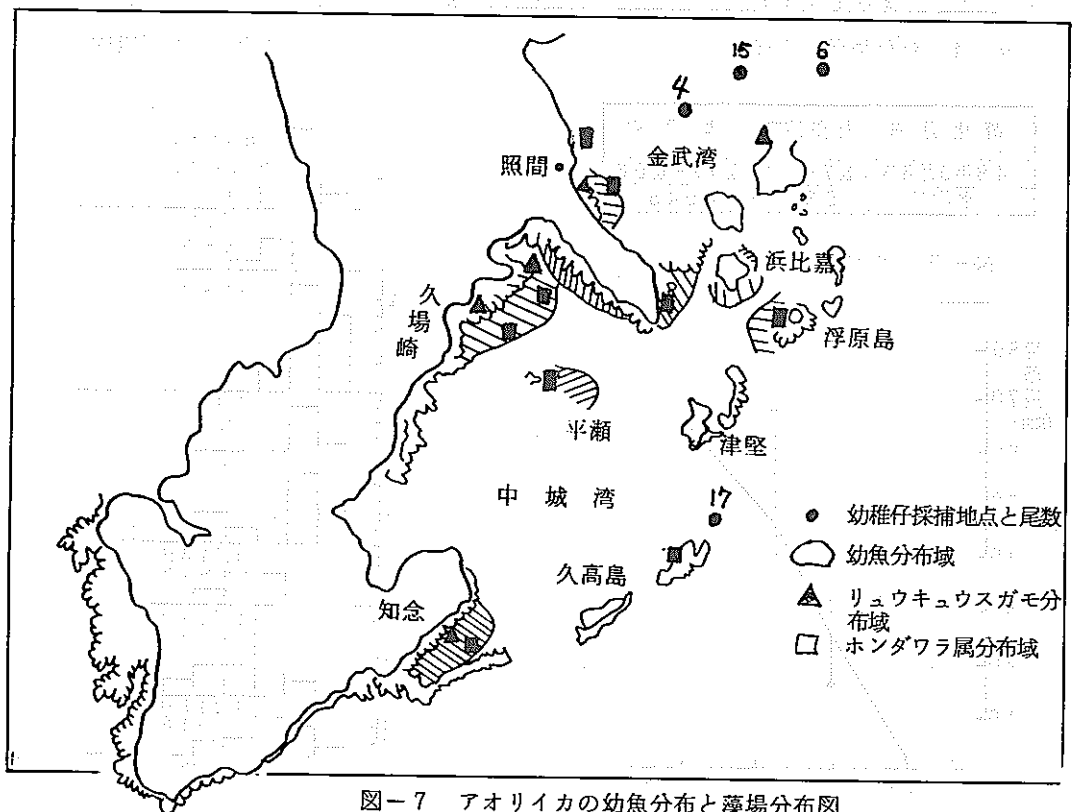


図-7 アオリイカの幼魚分布と藻場分布図